

令和年（少）○号、○号 窃盗、道交法違反保護事件

## 報告書

令和○年○月○日

福岡家庭裁判所 御中

少年 ○ ○ ○ ○

付添人弁護士 福岡 九州男

付添人は、令和年月日、現在試験観察中である少年の就業先である株式会社 A を訪問し、少年の就労先の様子を確認のうえ、少年及び A 社の代表取締役社長 B 氏（資料 1・名刺。以下、「B 氏」という。）から、少年の就労状況について聴き取りをした。

また、その後、A 社の寮である C 荘（福岡市×××所在）を少年、B 氏とともに訪れ、少年の生活場所を確認するとともに、少年から生活状況について、聴き取りを行った。

そこで、下記のとおり、報告する。

### 記

#### 第 1 就労状況等

##### 1 A 社の職場環境について

(1) A 社の主な仕事の内容は、解体・土木等の工事について、下請けとして入り、当該工事現場に人員を派遣するというものである。業種柄、朝は早く毎朝 5 時 30 分から事務所は開いている＜写真 1、2＞。

事務所には、食堂が併設されており、従業員はここで朝食をとったあと、弁当を持たされて現場に入る。仕事が終わったあとには夕食もここで取ることになる。食堂は、定期的に外部業者による清掃を行っているということで清潔に

保たれていた<写真 3, 4>。

(2) A 社は、解体業、土木業を主たる業務としている会社であるが、B 氏によれば、作業員の会社近隣でのトラブルや労災事故を未然に防ぐため、毎月 1 回安全大会を開き、注意事項や事故報告などを直接作業員に連絡しているとのことであった。その成果もあり、同社ではこれまで重大事故は発生していないということである。

また、A 社は、作業員との個別面談も定期的に行っているとのことであった。このような相談は、従業員間のトラブルや、失踪等を防ぐために実施されているものであるが、近時では特段、深刻な内容の相談は認められないとのことであった。

(3) A 社の事務所に隣接する従業員食堂では、日曜日を除き毎日朝昼夕の三食が賄いとして出されているとのことであった。少年は 18 歳と食べ盛りの年頃であるが、食堂ではご飯のおかわり等は自由であり、最初の頃はおかわりをすることに遠慮していた少年も、現在では毎食ご飯 3 杯を完食するなど食事には満足している様子であるとのことだった。

## 2 少年の就労状況

少年は、毎朝午前 5 時に起床しており、事務所が開く、午前 5 時 30 分には職場に行っているとのことであり、今のところ、遅刻や欠勤等もない、とのことであった。

これまでのところ、少年は、B 氏から優先的に仕事を回してもらい、定休日である日曜日以外は、現場に出ているとのことであった。少年が A 社で仕事を始めて 1 週間になるが、解体業、土木業は少年の従前の仕事と同一であり、仕事も慣れており、職場にも馴染んでいるようであった。B 氏によると、訪問時点で派遣されていた〇〇工業の現場責任者からは、少年を外さないで毎日、同社の現場に派遣してほしい、という要望があったとのことであり、現場でも信頼を得ているようであった。この話を聞いた少年は「そうなんですか。俺は聞いた

ことないですよ。」と言いながら、嬉しそうにしていた<写真 5>。

面会の際、少年は作業服姿であったが、その格好が板についていた<写真 6>。B 氏は、少年について、「作業員として、充分、合格ラインを超えています。月並みな言い方になりますが、本当にあの子は真面目ですよ。」と高く評価していた。のみならず、少年は、派遣先の現場においても、「挨拶もしっかりとするし、しっかり働いてくれる」と、高い評価を得ているとのことであった。

## 第 2 少年の居住環境について

### 1 居住環境について

少年が現在、居住している A 社の寮・C 荘は、A 社徒歩 10 分ほどの場所にある。築 30 年以上はあっている古い一軒家ではあるものの、掃除が行き届いており、整然としていた<写真 7、8>。

各部屋は、6 畳程度の広さの板間の個室であり、施錠が可能となっている。各部屋には、テレビ、冷蔵庫、エアコンが完備されていた<写真 9>。風呂、トイレは共用となっていた<写真 10、11>。火災防止のためにガスコンロは置かれておらず、代わりに IH クッキングヒーター（電磁調理器）が設置されていた。

B 氏によると、A 社は他にも多数の寮を有しており、C 荘はそのなかでは一番古い建物ということであった。他の寮は、風呂、トイレがついた完全な個室もあるとのことであるが、当面の間は、他の従業員の目の届きやすい C 荘で生活させるとのことであった。

なお、少年以外の入寮者は 40 歳以上ということで、少年と同年代の入寮者はいなかった。これは、同年代の若者を一緒に寮に入れるとつるんだり、喧嘩したりする確率が高い点へ配慮したものということであった。

少年の寮では、規律が定められており、午後 9 時以降の飲酒や居住者間での金銭の貸し借りは厳禁であり、これに違反者には罰金を課す等の対応が取られ

ているとのことであった<写真13>。

## 2 少年の生活状況

少年は、我々と一緒に寮の前まで、移動すると「先に行って片づけるので、待っててください。」と言って、先に自分の部屋に入って行った。ほどなく、自室に招きいれてくれたが<写真12>、布団を片付けたぐらいで、なかはこざっぱりとしており、ゴミや衣服が散乱していることもなく、清潔に保たれていた<写真13>。

B氏も、「他の従業員と比べても、なかなかキレイに使っているほうですよ。」と語っていた。

少年も、風呂、トイレは共同ではあるものの、特に不自由は感じていないとのことであった。また、他の入寮者にも可愛がってもらっており、トラブル等もない、とのことであった。

## 第3 被害賠償についての取組

少年は、当日払分の日当を仕事にでるたびに日当を受け取っていたが、令和年月日以降、日当（1日8,000円）のなかから、毎回1,000円をB氏に預け、管理して貰っているとのことであった。これにより、示談金の第1回の支払い日である6月末までには、約束の2万円をためることができる予定である。

以上